



コンファレンス・コールの議事録

ジェネラルエレクトリック (GE) - 2007 年度第3四半期収支報告

開催日時：2007年10月12日午前8時30分（東部標準時）

「本議事録は予備的なもので監査を受けたものではありません。本書には「将来見通しに関する記述」、つまり過去ではなく将来の見通しに関する情報が含まれています。その記載内容では見通し情報は将来見込まれるGCのビジネスや財務業績に言及することが多く、「期待される」、「見込まれる」、「計画する」、「信じる」、「目指す」、「であろう」といった表現が使用されます。将来見通しに関する記述では、その性格上、場合によって程度は異なりますが、不確実な事項について述べられています。弊社の場合、良し悪しを問わず将来の結果に影響する可能性のある不確実性には以下のようなものがあります。金利や為替相場、株式や商品価格の変動を含む金融市場の動向、商業および消費者信用環境、規制や規定、調査、法的な活動の影響、買収や売却処理を含む戦略的行為、将来における買収事業の統合、航空・鉄道輸送、エネルギー発電、メディア、不動産・ヘルスケア事業を含むがこれらに限定されない取引先主要産業の将来の財務業績、その他、政治・経済・ビジネス・競合関連の全国、地方、および世界に及ぶ数々の問題。これらの不確実性により、将来における実績はこの将来見通しに関する記述で述べられているものとは実質的に異なるものとなる可能性があります。弊社では将来見通しに関する記述を更新する義務は負いません。

会社側参加者**ダン・ジャンキ**

GE インベスターリレーション、副社長

ジェフ・イメルト

GE、CEO

キース・シェリン

GE、CFO

コンファレンス・コール出席者**ボブ・コーネル氏**

リーマン・ブラザーズ、アナリスト

ジェフ・スプレーグ氏

シティグループ、アナリスト

ステファン・トゥサ氏

JPモーガン、アナリスト

ニコル・パレント氏

クレディ・スイス、アナリスト

ディーン・ドゥレイ氏

ゴールドマン・サックス、アナリスト

スコット・デーヴィス氏

モーガン・スタンリー、アナリスト

ロバート・マッカーシー氏

バンコ・オブ・アメリカ証券、アナリスト

ニゲル・コー氏

ドイツ銀行、アナリスト

デーヴィッド・ブルーステイン氏

UBS、アナリスト

アン・ディグナン氏

ベア・スターンズ、アナリスト

ピーター・ネスヴォルド氏

ベア・スターンズ、アナリスト

プレゼンテーション**オペレーター**

皆様、本日はGEの2006年度第3四半期収益に関するコンファレンス・コールにご出席頂きありがとうございます。この度ご参加頂く皆様は聞き取りのみ可能となっております。私は、本日の皆様のコンファレンス・コーデディネーターを務めさせて頂くビルと申します。（オペレーターの指示） なお、本会議の内容は録音再生を目的として録音されています。

引き続き、本日の会議主催者であるインベスターコミュニケーションズのダンジャンキ副社長に進行をお願いします。では、よろしくお願いたします。

ダン・ジャンキー、GE インベスターリレーションズ、副社長

ビル、どうもありがとうございます。本日の収益に関するコンフェレンス・コールにご参加頂きありがとうございます。弊社の収益に関するプレスリリースが今朝6時30分に発表されました。この情報は、プレゼンテーションと補足情報と共に弊社の投資家用ウェブサイト www.GE.com/investor/に掲載されています。

このプレゼンテーションには将来見通しに関する記述が含まれていますが、これは現時点での世界情勢および経済状況に基づくものであるため、変更される可能性がありますので予めご了承ください。本日は第3四半期の業績と第4四半期の見通しについてお話しいたします。また、これに続き、何時も通り最後に質疑応答の時間を設けております。

この話題については、ジェフ・イメルト会長兼CEOとキース・シェリン副会長兼CFOからご説明させていただきます。それではジェフ、よろしく願いいたします。

ジェフ・イメルト、GE会長兼CEO

ダン、ありがとうございます。皆さん、おはようございます。先ず最初のページでは、幾つかのハイライトを取り上げたいと思います。GEにとっては好況が続いていると考えられます。グローバル市場は堅調で、金融市場ではリスクのリプライシングが行われています。これが著しい成長として数字に表されます。弊社の売上高は12%増、受注額20%増、資産23%増、内部成長は8%を計上しています。

特異な一時的な逆風の中、堅調な業績を達成しています。金融サービス事業では1億ドルの値洗いマイナスが生じています。インフラストラクチャー事業の幾つかはプログラム支出を牽引し、また、サービスのタイミングにおいて問題がありましたがこれは第4四半期に大幅に改善される予定です。弊社の第4四半期のインフラストラクチャー事業の見通しは大変堅調です。当初の予定よりも膨らんだ事業再編費用が1億ドルありますが、現在までの税率が18%であったところ税率が低かったこともあり若干相殺することができ、通年ベースでは軌道修正されました。

弊社の自社株買い計画は続行されています。第4四半期に約60億ドル、2007年には140億ドルに達する見込みです。プラスチック事業の売却による利益は、コスト削減に向けたインダストリアル部門の再編や、日本とWMCにおける逆風を取り除くために使用されました。第4四半期および通年の見通しは大変力強く活気があり、第4四半期は18～21%増の0.67～0.69ドルが予想されています。

ここで弊社の世界進出を簡単に見ながら、世界経済において弊社に有利と考えられる要素についてお話させていただきます。弊社に関わる様々なビジネスの一部について軽く触れたいと思います。先ず、世界市場は依然として非常に活発です。私は二週間程前にアジアの4、5ヶ国を訪問しましたが、至る所で堅調な成長が見られました。

インフラストラクチャー市場は依然として大変好調です。世界中の至る所で受注が生じており、それは減少というよりは加速している印象を受けました。弊社の資産成長におけるマージン率は非常に高く、記帳される新たな資産への大幅なリプライシングが行われます。更に米国経済の正確なバロメーターである広告市場は依然として健全でスキャッター価格も高値を付けています。

過去数ヶ月にわたって変動がないものも幾つかあります。コマーシャル・ファイナンスと世界における支払延滞は安定を続けています。資本市場は安定していませんが改善の方向にあると考えられます。住宅市場以外の一般的な米国経済は順調で、この地域では堅調な一桁台の受注成長率がみられます。

依然として困難な状況にあるのは住宅とサブプライム・モーゲージ市場で、米消費者の支払延滞率は僅かに上昇の兆しがみえます。赤字削減法（DRA）の影響を受けている米国のヘルスケア市場においては、厳しい状況が続いています。弊社の世界市場における力強さ、インフラストラクチャー技術、多様なビジネス、最上級のトリプルAの格付けを取得している貸貸対照表、リスク管理といった要因によって、GEはこの環境において非常に有利な立場にあると考えられます。また事業再編によってポートフォリオが改善され、リスクが削減されたと考えています。

今回の四半期における重要な測定基準は次の通りです。私が先程申し上げました通り依然として著しい成長振りで、受注額は20%増、売上高12%増、資産23%増、内部成長は8%増、計画ベースのEPS、継続事業からのEPSは9%増、純利益は15%増です。資本利益率は18.5%で、2008年までに20%という目標を維持しています。

マージンについては逆風ムードで、ヘルスケアと設備・機器サービスを合わせても相殺することはできませんでしたが、9ヶ月累計で70ベースポイント増で依然として上向きでマージンを引き上げています。また、インダストリアル事業のキャッシュフロー（C

FOA)は16%増とキャッシュは大変上向きで、自社株買いにあてられました。よって全てを考慮すると、この四半期の業績は堅調で弊社は通年でも良い位置付けにあると考えられます。

最後に長期的な戦略の達成に関する件で、常々お話をさせて頂いている基幹事業への投資について触れさせていただきます。私達は幅広い力強さ、インフラストラクチャー事業、コマーシャルファイナンス事業、NBCUにおける成長の加速を認識しています。プラスチック事業を売却してその代価を受け取ったことによって、ソンドックス社やオクシジェン社のような好ましい企業の買収に資本を移転できた事に私達は満足しております。また、日本の個人ローン事業とWMCの売却によって、将来のリスクを解除することができたと考えております。

計画達成の面では、キャッシュ収入、自社株買いにおいて順調で大変活発です。先程申し上げた通り9月累計で70ベースポイントで、これは重要な要因として私達も努力を続けます。「プロセスとしての成長」は否定できません。これは少なくとも内部成長8%に繋がっています。サービス収益は堅調です。世界における成長は依然として活発です。イマジネーションの進展、特にエコ製品は堅調で、この四半期に50億ドルの売上高成長を達成しています。また、チームは相変わらず確実に投資家の期待を満たすため専念しております。

それではここで、キースの方から事業の詳細について説明させていただきます。

キース・シェリン - GE、CFO

ジェフ、ありがとうございます。私は先ず受注状況からご説明させていただきます。今四半期も数多くの受注がありました。左側をご覧ください。今四半期における主要設備・機器の受注は120億ドルでした。受注は39%増にも及びます。アビエーションの93%増という点にご注目下さい。GENxとGE90は世界中で発注における素晴らしい強みを発揮しました。エネルギーについては火力発電と風力発電における素晴らしい業績によって今四半期で倍増し受注額は40億ドルを超えます。

石油・ガス事業は世界中で大変活発で56%増です。輸送事業は今四半期減少しました。これは何度もご説明申し上げている通り、主要な設備・機器の受注に波があることが原因です。昨年にはカザフスタンからワントタイムの大口受注がありました。9月累計では27%増で同事業は申し分のない状況です。また、インフラストラクチャー事業全般における主要設備・機器の受注は62%増でした。ご覧頂くように内部成長は38%増です。受注残高額は年末から56%増で150億ドル増加しています。つまり、主要設備・機器の受注は弊社にとって世界中で素晴らしいものがあります。

中心をご覧ください。サービス受注は4%増の82億ドルでした。これはアビエーション、石油・ガス事業によって牽引されています。商業アビエーション事業においては部品の大きな活躍によって、一日当たりおよそ1900万ドルの20%増でした。ご覧の通りエネルギー事業は下落、サービス受注の殆どは原子力発電に牽引されています。弊社には厳しい比較があります。昨年には再復性のない大型エネルギーサービスの受注がありました。また、弊社は地震が原因となった東京電力の放射能漏れなどのトラブルの影響も受けています。

次に右側をご覧ください。フローの受注は5%増の40億ドルでした。ライティングおよびインダストリアル事業は強みをみせました。家電事業においては、契約チャンネルが好調な小売を相殺して、僅かに減少しています。よって全体的には引き続き堅調で、総受注額は20%増の240億ドル、9ヶ月累計では18%増の710億ドルを計上しています。

次に、マージン、支払延滞と金融サービスについて説明致します。左側がマージンです皆様には四半期ごとにこの表をご覧ください。青の棒は平均の資産をパーセントで表した純収益、または拠出価額です。緑の棒はこれらの純収益から損失を差し引いたものです。

左側をご覧くださいと、リスク調整済みの拠出価額は基本的に前年比で横ばいです。資産の大幅な成長が増益を導いています。弊社のオリジネーション・チームはよく機能しています。詳細については後にご説明申し上げますが、生産性と事業再編による簡素化が増益を助けています。

右側には30日以上のお支払延滞率が表示されています。設備・機器投資における支払延滞率は基本的には変化がなく、歴史的な低レベルを続けています。GE

Moneyにおける支払延滞率は全体的に僅かに減少しています。米国では幾つか上昇がみられます。これについてはGE Moneyのページで詳細をご説明申し上げます。ポートフォリオの品質は引き続き好調レベルにあります。

次はインダストリアル事業におけるマージンについてご説明いたします。このページの上部は第3四半期と9ヶ月累計のマージンが表示されています。第3四半期は僅かに減少しましたが、9ヶ月累計では70ベースポイント増です。ヘルスケアとインフラストラ

2007年10月12日午前8時30分（東部標準時）GE（ゼネラルエレクトリック）第3四半期収支報告

クチャー事業は今四半期の押し下げ要因となりました。ヘルスケアは0.2ポイントの引き下げで、利益率の高い事業と合わせて横ばいとなっています。インフラストラクチャー事業はサービス部門の成長率を上回る勢いで設備・機器部門の販売を続けており、両方とも好調です。更にも順調に進んでいますが、これらは他の事業に比べ利益率は低いため押し下げ要因となります。

右側をご覧ください、9月累計の成長要因が挙げられています。ここで重要なポイントは、インフラストラクチャー事業における大きな成長です。しかしながら、設備・機器サービスの合計は9ヶ月累計で0.4ポイント引き下げています。これは素晴らしいニュースです。弊社は利益を計上し、設備・機器部門については30%以上、サービス事業は10%成長しています。現在インストールベースを強化しておりますので、これが今後サービス事業に貢献すると考えられます。しかし利益率は僅かに引き下げとなっています。

下部をご覧ください。通年と第4四半期が表示されています。第4四半期においては50ベースポイントの成長が期待されます。右側にはその成長要因が挙げられています。生産性は力強い伸びで、また価格はインフレーションの吸収効果以上の成果を出しています。

また、弊社はオリンピックによってNBCで利益を得ています。設備・機器サービス部門は年間を通じて弊社に影響を与えます。インフラストラクチャー事業における買収も通年で弊社に影響を与えます。更にヘルスケアによる引き下げがあります。第4四半期においては50ベースポイントで通年にして70ベースポイントが期待され、私達はそれを達成するために専念しております。

次に利益と資本の配分について説明します。12月における弊社の当初の見通しでは、事業再編にあてる税引き利益は10億ドルから15億ドルでした。プラスチック事業の売却による素晴らしい結果によって、弊社は資金調達に27億ドルを投じることができました。コストを削減するための数多くの事業再編によって事業形態を改善し、またWMCと日本GE Moneyジャパンの売却によってGE Moneyにおけるリスクを削減しました。

売却処置によって、弊社は資本の配分において更なる柔軟性を得ました。年始に定められた一連の処理の最終段階として売却が実行されました。まず、プラスチックとSwiss Re社の売却を無事終え、日立製作所との原子力事業における合弁を完了させています。またスミス社やベトコ社の買収によって弊社のアビエーションと石油・ガスのフランチャイズ事業を著しく改善しました。エネルギー管理とエンターテインメント・ケーブル事業を強化する買収も発表しております。これでポートフォリオに再投資できます。

更に、弊社はアボットの買収を取りやめ、今年の自社株買いを140億ドルまで増加させました。予定より1年早く270億ドル計画を完了させる勢いです。利益は事業再編と既存事業に投じられ、2007年は弊社の将来のポートフォリオを強化する素晴らしい年となっています。

次は、事業再編における最新情報およびその他の財務費用についてご説明します。これは第1四半期に始めた報告の続きです。第3四半期では、皆様もご存知の通り、プラスチック事業の売却を完了致しました。弊社は税引き後利益18億ドルを実現させ、この利益は非継続事業として計上しています。

この左側には、この四半期における事業再編およびその他の財務費用の金額が表示されています。第3四半期において、「レイク」として知られる個人ローンを取り扱う日本のGE MoneyとWMCは非継続事業となりました。日本のGE Money、レイクの財務費用の欄を見て頂きますと、現時点での事業売却による損出の見積もりが表示されています。同件に関してはアドバイザーを起用しており、売却プロセスを実行中です。

WMCのために第2四半期時の資産11億ドルは縮小されています。第3四半期末の時点では3億7500万ドルまで縮小していますが、同事業の売却処理は継続中です。

継続事業における事業再編には5億6800万ドルが投じられています。企業としての環境関連の財務費用に加え、事業全体で生じた費用が右側に表示されています。右側のカテゴリー別の金額をご覧ください。先程から申し上げている通り、事業の売却が最大の要因です。

一方、C&Iの事業再編にも多額の費用を掛けています。世界におけるライティング施設13拠点の縮小を予定しています。弊社はコストの低い地域への移行を始めています。6つのインダストリアル及び家電事業の工場を閉鎖しています。ヘルスケアとNBCユニバーサルについてはコスト構造改善処置をとっており、金融サービス事業については簡素化を続けています。また、米国と英国の施設、またメキシコ、オーストラリア、ニュージーランドの施設を合併させています。

継続的な事業再編によって、資本回収期間は3年、そして年間9,000人の削減が生じます。また、その利益によってコスト構造が下がり、弊社の成長と企業のリスクプロファイル改善に役立ちます。

2007年10月12日午前8時30分（東部標準時）GE（ゼネラルエレクトリック）第3四半期収支報告

さて、第3四半期の数字についてご説明する前に、弊社の会計に関する最新情報をお伝えします。今朝のプレスリリースで触れた通り、弊社はこの第3四半期中に監査及びコントローラシップチームによって指摘された、前期の会計情報に関する幾つかの重要ではない事項を更新するために、フォーム8-K を発表しました。

左側の状況から説明させていただきます。現在米国証券取引委員会による継続中の調査の3年目で、この協力のために数多くの人材を投じています。社内監査スタッフ、社外の監査役、KPMGの他に、アーンストアンドヤングやチャールズリバーアソシエイツからの技術関連チーム等が同件を担当しています。また、会社全体で収益認識基準やその手順についての再検討が行われており、時宜を得た透明性のある処置とその開示に専念しています。

この右側には、今朝フォーム8-Kでご説明した二つの事項に関する概要があります。一つ目は出荷時の収益認識に関連するものです。弊社は保険の慣行によって輸送上のリスクを保持していることを決定しました。そして、弊社は輸送上のリスクを保持したために、幾つかの事業における収益が出荷ベースではなく、目的地ベースに修正する必要がありました。

二つ目はアビエーション契約のサービス協定に関係するものです。エンジン整備、また整備するエンジン部品を取り除く際に生じる部品に対する入金について問題がありました。ご覧の通り、これらの訂正による財務面の影響は重要なものではありません。これらによる歳入の影響が0.3%以上であった年度は過去にありません。また、純利益の影響が0.6%以上であったことも過去にありません。また、2007年もこれらの調整による影響は殆どみられません。

全ての詳細はウェブサイトとフォーム8-Kに記載されております。この二点が、現時点で発見されたものです。経営陣チーム、監査委員会、役員会共に、私達は情報開示の透明性に専念しております。四半期別、セグメント別および年次別に、これらの要因による影響についてフォーム8-Kの全詳細をお伝えしております。弊社は今後フォーム10-Q、そして来年にはフォーム10-Kをファイル致しますので、適宜これらのファイリングによって数字を更新させていただきます。

次は第3四半期におけるEPS原動力に関する概要についてです。これらの数字は9月に行われたインフラストラクチャー事業の会議の枠組みで使用されたものです。右側をご覧ください。継続事業における事業再編前の業績は0.56ドルでした。この四半期には、他のページでご説明申し上げた通り、事業再編の費用は0.06ドルで、当初の見通しに比べ0.01ドル増加しています。よって継続事業のEPSは9%増の0.50ドルとなります。

非継続事業においては、プラスックスによる純益とレーク、WMCの費用がEPSベースで0.04ドルで、最終的に報告ベースのEPSは15%増となりました。継続事業の再編は先に私達をご報告申し上げた以上のものでした。私達はこの四半期に0.06ドルで終わることができ満足しております。

第3四半期の連結決算について話させてください。左側は継続事業の概要です。収益は12%増の425億ドルで、売上高は非常に堅調な四半期でした。利益は7%増の51億ドル、継続事業からのEPSは9%増の0.50ドルと、自社株買いによる利益がみられます。先程説明致しました非継続事業についてですが、その影響を含んだ報告ベースEPSも加えております。

9ヶ月累計のキャッシュフローは、私達の予想に沿い163億ドルで、インダストリアル部門におけるキャッシュは強みをみせています。キャッシュについては後に詳細を説明いたしますので、少々お待ちください。そして税金です。第3四半期9ヶ月累計の課税率は、通年連結ベースの見積もり17%という弊社の当初の見通しと同じラインにあります。

第3四半期では、インダストリアル部門における課税率は25%でした。弊社における連結ベースの課税率は、WMCと日本GE Moneyが非継続事業となったことによって9ヶ月累計の課税率よりも低くなっています。ご覧の通り、キャピタル・サービスにおける課税率はこの四半期ゼロとなっています。この動きは、第3四半期における9ヶ月累計の課税率を弊社の通年ベースの予想と一致させるために、上期の税引当金が第三誌半金において戻入益となりました。

つまり、この四半期において税金が下がったことは、WMCと日本のGE Moneyが非継続事業となった結果であり、また、同期間における課税率の高い事業再編と他の財務費用の影響によるもので、弊社の2007年度の連結ベースの課税率は17%を維持しています。

右側には業績が表示されています。インフラストラクチャー、コマーシャルファイナンス、GE Moneyの全てが二桁台の増益率を達成しています。ヘルスケア、NBCユニバーサル、インダストリアル部門については期待通りでした。事業再編計画やインフラストラクチャー計画による影響が予想以上であったこと、特に税金の減少によって一部相殺されたファイナンシャルサービスにおける値洗いなど、企業の再編や継続事業においてそれぞれ1億ドルの影響を受けたにもかかわらず、この四半期は全体として非常によい業績を達成しています。

よってこの四半期は好調であったという印象を受けております。事業別の詳細については別途ご説明申し上げます。

次はキャッシュについてです。第3四半期のキャッシュは、引き続き弊社の予想に沿っています。左側をご覧ください。営業活動からのキャッシュフロー（CFOA）は私達の計画通り、昨年を下回る1630億ドルでした。その要因が左下に記載されています。2006年上期における保険収益による特別配当金は今年よりも30億ドル上回っています。

インダストリアル事業のCFOAは105億ドルで、9月累計で16%増です。これは弊社の計画を僅かに超えるもので、インフラストラクチャー事業における成長のタイミングのよさが要因となっています。

右側に弊社の収支の動きが表示されています。期首残高は45億ドルです。これに左側のキャッシュフロー163億ドルを足して、支払い済みの配当金87億ドルを差し引きます。9ヶ月累計で81億ドルに及ぶ株式を買い戻したことになります。第3四半期においてその内の63億ドルの株式を購入しており、通年で140億ドルに向けて順調なペースです。工場及び設備・機器は20億ドルでした。弊社はプラスチックの売却を完了しておりますが、これはスミス社とベトコの買収資金を部分的に相殺するもので、この四半期には72億ドルのキャッシュを計上しました。

よって弊社のキャッシュの収支については予想通りで、通年で220億ドルのCFOAを達成できるものと思われま。株主総利益をご覧頂くと、今年の弊社の配当金と自社株買いは株主総利益に合計で260億ドルを計上しています。

さて、左側にある第4四半期の枠組みは事業別の見通しです。第4四半期においてはインフラストラクチャー事業が好調で20%増以上が期待されます。インダストリアル部門、コマーシャルファイナンス、NBCユニバーサルにおいては二桁台の成長が期待されていません。GE

Moneyは5～10%増で、ヘルスケアは横ばいです。右側をご覧ください。依然として四半期の売上高は好調で、堅調な二桁台の増益率および一株利益が見込まれます。

第4四半期の見通しをご覧頂くと、18%～21%増の0.67～0.69ドル、先にジェフが申し上げた通り、通年で18%～19%増の2.19～2.22ドルを達成できる見込みです。よって第4四半期は健全の見通しです。

さて、ここで事業別の説明をさせていただきます。先ずインフラストラクチャー事業から始めさせていただきます。ジョン・ライストとそのチームは19%の増益と、セグメント別には12%の増収を達成しています。左下に業績が表示されています。アビエーションとエネルギー事業については次のページで詳細をご説明致します。

セグメント別の合計では受注は引き続き絶好調で合計で32%増、設備・機器において60%増でした。受注残高に140億ドルを加えました。トップレベルの成長も好調で、この四半期における収益はアビエーション、石油・ガス、輸送事業によって牽引されました。設備・機器部門においては大きな成長を続け、その成長率はサービス部門以上のものでした。先にご説明した通り、サービス部門はインストールベースの成長が鍵となりますが、マージンとしては残念な結果でした。

縦にご覧下さい。アビエーションのファイナンシャルサービスはこの四半期2%減でしたが、通年でみると9ヶ月累計では17%増でした。好調な年といえるでしょうエネルギー事業のファイナンシャルサービスにおいては非常に活発で14%増でした。

第4四半期についてアビエーションとエネルギー事業をご覧頂きますが、増益の加速が期待され、セグメント別利益は20%以上増加する見通しです。それでは次のページのアビエーション事業に入ります。

アビエーション事業の収益は35%増で、セグメント別利益は7%増でした。受注は大変好調でした。総受注額は50%増の55億ドル。主要設備・機器の受注額は93%増です。コマーシャルエンジンの受注額はGE90とGENxに牽引されて24%増の17億ドルとなりました。軍用エンジンの受注は、F15のリエンジンに関するサウジアラビアとの契約と米国海軍との契約によって90%増で、サービス受注額は15%増の23億ドルでした。

アビエーション事業の受注残高額は前年比89%増の180億ドルで、この四半期スミス社は増益でした。同社は営業利益においておよそ10%増の6億ドルを達成しています。収益成長率を見て頂きますと35%増で42億ドル、コマーシャルエンジンは19%の増収でした。前年度より40以上のコマーシャルエンジンを出荷しております。コマーシャルサービスは16%増、昨年は部品の発注が一日当たり16個であったところ、今年は19個となっています。

軍用は2%増でした。営業利益は7%増でした。これはスミス社が9%増のところ本業が2%減であったために相殺されています。この四半期には二つの特別品目がありました。主にGENxとLEAP56によるプログラムインパクトは前年比9000億ドルで、2006年第3四

2007年10月12日午前8時30分（東部標準時）GE（ゼネラルエレクトリック）第3四半期収支報告

半期の5000億ドルは継続性のない一回限りのサービスでした。これら二つの品目を調整すると営業利益は20%増となっていた筈で、第4四半期はセグメント別で20%の増益が見込まれます。よってアビエーションは堅調な見通しです。

右側はエネルギー事業で、その収益は3%増、営業利益は7%増です。エネルギー事業における総受注額も急成長しています。この四半期における総受注額は39%増の65億ドルでした。主要設備・機器の受注額は103%増です。火力発電事業は著しい成長を見せ209%増の20億ドルでした。ガスタービンの受注は昨年同期の22基に対し、この四半期は35基でした。火力発電事業の発注残高は現在58億ドルです。これは1年前に比べ110%増加しています。

風力発電設備の受注額は90%増の15億ドルでした。風力発電設備の受注残高は1年前と比較して112%増の70億ドルでした。また、原子力においては100%以上の増加で、これには新プラント用のロングリード品に関する二度目の1億ドルの受注が含まれます。よって全体としては、パワーゼン社は大変好調で、この受注価格は9ヶ月累計でおおよそ7%増でした。

収益は3%増の52億ドルでした。パワーゼン社は13%の増益であったことがおわかりになると思います。ガスタービンについては、昨年の43ユニットに対してこの四半期は僅かに増え、45ユニット出荷しております。風力発電設備については、昨年の613ユニットから僅かに増え662ユニットを出荷しています。また、サービスの収益はこの四半期の押し下げ要因で、この厳しい比較の中9%減としています。

サービスにおいては、レンタル、トランスミッション事業の一部分、流通などの利益率の低い事業を売却しています。また、契約サービス事業においては原子力発電と比較してタイミングの問題がありました。これらの売却処分と時機の悪さが収益と営業利益に影響し、サービスは足を引きましたが、マージンは80ベースポイント増でした。第4四半期の見通しは非常に堅調で、ほぼ30%増の見込みです。第4四半期のアビエーションとエネルギー事業については、全ての受注と成長の基本は非常に力強いもので、両事業とも第4四半期は堅調な見通しです。

次はGE

Moneyについて説明させていただきます。左側をご覧ください。デイヴ・ニッセンとそのチームは13%の増益率を達成しています。収益は23%増の62億ドルで、これはセグメント別利益13%増の9億4200万ドルを牽引しています。

資産は順調に成長しています。これはヨーロッパとアメリカ大陸両方における中核の成長によるものです。収益性、セグメント別利益は新興成長市場によって牽引されました。中央、東ヨーロッパが堅調に増加したことによって、ヨーロッパでは合計で11%増でした。アジアでは34%増です。これは韓国、東南アジア、オーストラリア、ニュージーランドによって牽引されました。

アメリカ大陸においては4%減でした。ここでは数量面においては堅調な成長と生産性がみられましたが、支払延滞による引当金や帳簿からの消去が数多く生じたことによって相殺されました。ご覧の通り、全体的に支払延滞率はGE Moneyの世界中において減少していますが、米国では35ベースポイント増です。弊社のチームは引受業務を引き締めています。また、弊社はクレジットラインの引き下げを行いました。集金人を増加させこの問題に対処しております。支払延滞率については、基本的にその歴史的な最低値からは離れたが、現在アメリカ大陸においては2005年のレベルに戻っています。よって第4四半期の見通しはセグメントの利益で5~10%増です。弊社は引き続き世界における堅調な成長とアメリカ大陸における抑圧を期待しています。

この左側はインダストリアル部門です。ロイド・トロッターとそのチームはセグメントにおける6%の増益を達成しています。サブライヤモードスペース等の売却の影響を調整しますと10%増となります。また、弊社はこの四半期においてインダストリアル部門の再構築を図っております。ジム・キャンベルはコンシューマ&インダストリアル事業の経営を続けます。またシャーリーン・ペグリーが現在、センシング、セキュリティ、デジタルエネルギー、設備・機器サービス等のエンタープライズソリューション事業を統括しています。

よってこの四半期では、売上高の成長はエンタープライズソリューション事業が牽引しています。コンシューマ&インダストリアル事業はライティング部門に牽引され2%増でした。家電事業の収益は1%減でした。小売事業は1%増でしたが、契約事業で相殺されました。建築チャネルにおいては、皆様も予想されるように、5%減でした。世界におけるライティング事業の収益は非常に堅調でした。CFL等のエコマジネーション商品に牽引され16%増で、セグメントの利益をご覧頂くと、これはコンシューマ&インダストリアル事業に牽引されて6%増でした。ライティングは大変好調です。エンタープライズソリューション事業にとって活発な四半期でした。第4四半期におけるインダストリアル部門の利益は10~15%増の見通しです。

次はNBCユニバーサルについてです。ジェフ・ザッカーとそのチームはこの四半期に数々の増益を達成しています。収益は3%増の38億ドルでした。セグメント別利益は9%増でした。弊社としてはこの進捗状況に大変満足しており、様々な黒字転換の要素があります。これについては今後も引き続き皆様に最新情報をお伝え致します。ネットワークも堅調です。現在までデモシーズンのスタートに取り掛かっています。

『バイオニック・ウーマン』はNO.1の新しいショウです。『オフィス』はNo.1のコメディです。『ヒーローズ』は月曜夜のNo.1です。『サンデーナイト・フットボール』も好調で、弊社によるコンテンツ所有によってスタジオとTVネットワークに大いに役立っています。弊社は『ヒーローズ』をマネタイズしています。『オフィス』をマネタイズしています。『ハウス』も同様です。これは弊社のネットワークではありませんが、ネットワークが25%増であることご覧頂くとおわかりなるように、弊社はそのプロデュースを成功させ、スクアッター価格を生成しています。ネットワーク事業は好調です。

エンターテインメントと情報ケーブルも堅調です。USAは一位、サイファイは7位に付けています。プラボはこの夏に最高潮を迎えています。MSNBCとCNBは二桁台の増加で、スパローホーク社とオクシジェン社の買収によって弊社のケーブル事業の資産が増え、弊社の世界中のネットワークとケーブルプラットフォームが構築されています。

パーク事業の映画を見て頂くと、今年の夏は全体的に好調であったといえるでしょう。映画の『Bourne』は予想を遥かに上回り、その堅調振りを牽引しました。『Chuck and Larry』、『Knocked Up』は国内ボックスオフィスでこの夏2位に位置づけています。またDVD発売が続き今後6ヶ月も好調な兆しがみられます。パーク部門においてもこの四半期は最高で、デジタル部門は成長を続けています。NBCダイレクトと新しいサイト「フルー」は来月立ち上げの予定で、そのコンテンツにおいてアマゾンと提携しています。

映画、ケーブル、NBCスタジオにおける素晴らしいコンテンツは好調で、秋のシーズンも力強いスタートを迎えています。また、第4四半期にも展開が続きます。弊社は収益は5%増、営業利益は10～15%増を期待しています。

次はヘルスケア事業についてです。ジョー・ホーガンとそのチームは第2四半期の見通しに沿った業績を達成しています。収益は4%増、セグメントの利益は1%減で、世界における受注は横ばいでした。サービス部門は堅調でしたが、設備・機器部門が3%減であったため相殺されました。DRAとOECによって受注は7ポイント下がっていますが、世界中で成長がみられます。ヨーロッパでは19%増、中国でも13%増でしたが、アメリカ大陸の8%減によって相殺されています。日本においても15%減でした。

収益面も同様です。世界中で大きな成長がみられます。ここに幾つかの数字が表示されています。米国においてはDRAとOECによる影響を受け5ポイント減です。これは明らかにセグメント別利益にもインパクトを与えています。この詳細は右側の原動力の欄に表示されています。第2四半期の見通しから情報を更新しました。

表の上部に営業利益総額が示されています。この第3四半期におけるOECとDRAによるインパクトと、その他残りの部門における強みをご覧いただければと思います。第3四半期におけるその他部門は17%増で、昨年は出荷がなかったためにOECのインパクトは僅かに低くなっています。しかし全体としては、他のビジネスにおける強みがDRAとOECの影響を受けた米国のイメージング部門を相殺しています。

よって今後も引き続きイメージング部門における低迷と、他の事業における強みが予想されます。弊社は第4四半期にOECの出荷が始まることを期待していますが、現在までのタイミングに基づく通年としては重大な影響はありません。来年には軌道調整されます。

第4四半期の見通しですが、セグメント別利益は横ばいです。右側では2008年の枠組みをご覧いただけます。2008年のヘルスケア事業については、米国市場の軟調が続くDIは横ばいですが、来年にはOECと比較するとプラス成長となり、引き続きその他残りの部門の堅調が期待され2008年には事業全体で10～15%増の見通しです。

最後はコマーシャルファイナンスについてです。マイク・ニールとコマーシャルファイナンスのチームは素晴らしい四半期を終え、収益は17%増、セグメントの利益は12%増、資産を大きく成長しています。続いて右側ですが、不動産事業をご覧頂きますと、引き続き著しいオリジネーション環境がみられました。異なる事業プラットフォームから、過去12ヶ月累計で資産を600億ドル伸ばしています。この四半期の収益率をご覧頂くと、不動産事業は又しても好調でした。

純利益は45%増の6.4億ドルでした。これは資産の大幅成長49%増と好調な販売実績によるものです。第3四半期には、資産20億ドルの価値に及ぶ104の物件を売却しており、弊社は更なる投資を続けています。資産は100億ドル程増加しています。ポートフォリオの品質は優れています。現在不動産事業において利益を伴わない資産は0.1%以下で、見通しは依然として好調です。

キャピタル・ソリューションにおけるこの四半期の利益は19%減の4.24億ドルでした。これは資本市場の混乱の影響を受けています。弊社は基本的には幾つかの資産売却を取りやめました。これは昨年との厳しい比較対象となっていますが同事業は順調で、第4四半期における二桁台の大きな成長が見込まれます。

ジェフが先程申し上げました通り、弊社は市場変動性による多少の影響を受けております。これは弊社の倉庫と幾つかの証券化された残余持分で値洗いをを行う結果になりました。

これについては、どのファイナンシャルサービスと比較されても驚くべき業績で、それは弊社が保持を引受けているためです。弊社の殆どが優先株式です。弊社には優秀な代表団とリスク制限基準があり、チームは素晴らしい仕事振りでこの夏の市場を乗り越えています。

第4四半期では、資産の急成長と高品質のポートフォリオがプラス面となるでしょう。不動産事業における利益成長率はこれまでのベースと比較して多少緩やかになることが予想されますが、全体としては第4四半期のコマーシャルファイナンスにおけるセグメントの利益は10%増加する見通しです。

それでは、ここでジェフの方に戻したいと思います。

ジェフ・イメルト、GE会長兼CEO

キース、ありがとう。私の方からは、特に今日弊社のおかれる環境において今後どう展開するかについて、まとめをしたいと思います。私は、弊社の全体的な見通しについて極めて満足しております。

それぞれの事業の位置付けを確認させていただきますと、先ずインフラストラクチャー事業は弊社の利益の37%を占めております。弊社はその受注残高の強い、世界的な成長、優れた技術によって大変有利な位置付けをしています。私達は大型インフラストラクチャー構築の始まりの段階で、サービス収益を伴う大型のインストールベースを建築しています。設備・機器部門においては、非常に活気があったという点でその成長に驚きを感じており、弊社の位置付けに大変満足しております。

コマーシャルファイナンス事業は弊社の収益の20%を占め、ご存知の通り、トリプルAの格付けを取得するまでの最高の時機にあります。リプライシングの大きなリスクがありました。弊社のリスクに関するポリシー、リスク分散、流動性ある優れたオリジネーションによって、コマーシャルファイナンス事業の将来は明るいと思われま

GE

Moneyについては、二つの押し下げ要因を排除しました。モーゲージについては素早い対処を取り、日本における逆風を取り除きました。弊社は世界的な位置付けを確立し、大幅な成長をとげていると思われま

NBCユニバーサルについてはその弾みや素晴らしいケーブル、映画の業績に満足しております。ネットワークの黒字転換については向上中です。この事業は弾みがあり、2008年には堅調な二桁台の利益成長率が期待されています。

インダストリアル事業は弊社収益の8%を占めます。弊社はプラスチックのような供給原料や関連事業の全てを排除し、ハイテクとブランド優位事業のプラットフォームとなりました。

今後12~18ヵ月後を見てください。GEは世界中で力強い位置付けにあり、新しいテクノロジー、多額の受注残高によって確固たる地位を占め、更なる成長が期待される企業です。

ここでまとめさせていただきますと、第4四半期に向けビジネスには力強い弾みがあり、堅調な2007年を達成することが期待されます。利益は事業再編や売却処理に使われています。内部成長率は確かなもので素晴らしい弾みを続け、利益率は70ベースポイント拡大しています。弊社はこれ以上を狙っておりますが、そのプログラムにはよい弾みがあります。資本配分の面ではポートフォリオが改善され、投資家の皆様に多額の運用益を還元しています。通年で18%~19%増の2.19~2.22ドルを達成することが期待されま

ここで過去に戻り、今年度の第3四半期までまとめさせていただきますと、弊社はプラスチックの売却し、その資本をベトコ・グレイ社、スミス社、幾つかのハイテクインダストリアル事業、NBCUケーブルの買収に運用しています。著しい資産の取引であったと考えております。

私達はプラスチック事業で得た利益を、弊社のコスト構造削減と長期におけるリスク削減に使いました。この資本転換について私達は大変満足しております。自社株買いの形で株主の皆様には260億ドルを還元しております。繰り返し申し上げますが、弊社は大変よい状況にあり、健全な第4四半期、そして2008年が期待されます。

ここでダンソンに戻します。

ダン・ジャンキー、GE インベスターリレーションズ、副社長

ありがとうございました。ビル、今から質疑応答を始めましょう。

質疑応答

オペレーター

（オペレーターの指示）リーマン・ブラザーズ社ボブ・コーネル氏

ボブ・コーネル氏、リーマンブラザーズ社アナリスト

「将来見通しに関する記述」に関する質問が幾つかあります。特にインフラストラクチャー事業における第4四半期からの大型受注の増加について話されていますね。今までの報告に関連するその受注残高におけるマージンとははといったどのようなものか教えてください。明らかに御社は堅調な第4四半期を迎えられるようですが、2008年以降の利益の流動性についてより大きな視野を持つべきではないのでしょうか？

キース・シェリン - GE、GFO

ボブ。ご存知の通り、弊社は今後マージンとインフラストラクチャーの成長を期待しています。よいお知らせとしては、弊社の受注価格を見て頂くと、アビエーション事業においてエンジン受注の新価格は4%増加しています。現在のガスタービンの受注については10%増で、9ヶ月累計で8%増です。風力発電設備においては6%増で、第3四半期に設備・機器の販売が転がり込み始めていることがわかります。

弊社における全体的な価格はほぼ0.7%増で、インフレーションを相殺する以上のものです。しかし、新しい価格による受注は販売が開始された昨年の上期に始まったばかりです。ですから、その点については改善が見られると思います。

二つ目ですが、確かにスミス社とベトコ社の買収による株式の希薄化とマージンの影響は2008年には続きません。それは比較問題でもあり、事業の成長だけでなく利益率を上げるために気が狂ったかのように働く協同チームがあるためと思われず。これは我が社にとってまさにチャンスです。現在これらの二つの事業はインフラストラクチャー事業の平均に比べおよそ10%の差があります。ですから二つ目は、向上の機会です。

三つ目は、引き続き設備・機器部門がサービス部門よりも速いペースで成長を達成することです。これは私達が構築するビジネスとしてよいお知らせですが、インフラストラクチャー事業についてはマージンを100ベースポイント近くまで増加させることを期待しています。これは弊社全体としての2008年の目標です。

ボブ・コーネル氏、リーマンブラザーズ社アナリスト

ありがとう。あなたが触れていた他の点は、資産成長、高マージン、ファイナンス面ですね。その資産成長におけるマージンの向上というのはどの程度のものでしょうか？

キース・シェリン - GE、GFO

ポートフォリオを通じてそれがどのように動くかについて、これから私達は取り掛かり、そして皆様にみて頂くことになります。基本的には、弊社の平均資産の周期はコマーシャルファイナンス部門でおよそ3年と考えられます。ですから、第3四半期において債務と株式投資の両方においてより良い還元が確認されても、ポートフォリオ全体に浸透するには少々時間が掛かります。

しかし明らかに市場の混乱により、今日弊社が運用している資本額はより良い収益率にあります。私達はこの状況に大変満足していて、これが今後のコマーシャルファイナンス事業に役立つと考えています。ポートフォリオ全体という面では規模が大きいため、それが進行するには時間がかかるということです。

ボブ・コーネル氏、リーマンブラザーズ社アナリスト

わかりました。ありがとうございました。

オペレーター

シティ・グループのジェフ・スプレーグ氏です。

ジェフ・スプレーグ氏、シティ・グループ、アナリスト

ありがとう。おはようございます。キース、GEキャピタルではどのようにして税金を処理したのでしょうか？私は少々混乱しています。上期にWBCとレークが累計で損失を出しているとしたら、なぜプラスに反転するのでしょうか？上期には税金のマイナスが生じたのではないのですか？

キース・シェリン - GE、CFO

はい、それはよい質問です。第3四半期において下がった理由ですが、これは別の方法で説明させて下さい。上期をご覧頂くと、GE CAの課税率は11%と報じられております。これには課税率の高いWMCと日本GE Moneyによる巨額の損失による半年間の税金の影響が含まれます。弊社としてはそれが発生した時期ではなく、年率に比例して継続中の影響を組み込む必要があります。という訳で、上期に多額の損失が生じて、これらの損出は基本的には通年見積りに組み込まれます。

ですから、上期にGECSの課税率は11%であっても、WMCと日本GE Moneyを非継続事業とした際に、上期のGECSの課税率は18%まで上昇します。そこで第3四半期の課税率を通年ベースの課税率に沿わせるためには、これらの上期の引当金を戻し入れする必要があります。よってWMCとGE Moneyを非継続事業にしたことで、上期から税の引当金戻入益が生じました。

9ヶ月累計ではこれらの課税率をみると、私達の期待のライン上にあります。上半期にこれらの税効果を据え置きにしたので、第3四半期にその控除を受けます。

ジェフ・スプレーグ氏、シティ・グループ、アナリスト

その第4四半期における税額控除というのはどの程度の大きさですか？

キース・シェリン - GE、CFO

およそ1.9億ドルに及びます。ここで再びこの原動力の全てをご覧頂きますと、事業編成がより高くなっています。課税率の低い税込利益があったのは、一部は事業編成によって、そして一部は単に課税率の低い税込利益であった為です。これらは課税率を多少下げるのに役立ちました。しかしWMCとGE Moneyについては、1.9億ドルです、ジェフ。

ジェフ・スプレーグ氏、シティ・グループ、アナリスト

ということは、これまでのGEキャピタルの課税率はこの四半期まで6%位ということですか？

キース・シェリン - GE、CFO

いいえ、Xの要素を加えてみると、9ヶ月累計で13%になると思います。

ジェフ・スプレーグ氏、シティ・グループ、アナリスト

ここではっきりさせたいのですが、報告の観点からいうと、全ての事業再編が本社勘定の下にあるということですか、それともその幾つかがセグメント別の数字に含まれているのですか？

キース・シェリン - GE、CFO

いいえ、企業再編は本社勘定に含まれます。損益計算書とセグメント間取引の消去および本社勘定を見て頂きますと、この四半期で600のマイナスです。この点については質問があったことと思います。そのライン上に税込事業再編費用、それから企業コストとして8億ドル程が含まれています。そのラインを相殺するものは、すぐには明らかにはなりません、そのライン上に含まれることになる税額控除です。

つまり事業再編を相殺するものは、およそ1.9億ドルに及ぶ上期のこれらの引当金戻入益による税額控除です。更に、修正報告によって昨年は1億ドル程の調整がありまして、差異が僅かに高く生じています。つまり事業再編は、税効用と昨年の修正報告によって部分的に相殺されたわけです。

ジェフ・スプレーグ氏、シティ・グループ、アナリスト

どうもありがとうございました。

オペレーター

JPモーガン社アナリストのステファン・トゥサ氏です。

ステファン・トゥサ氏、JPモーガン社アナリスト

おはようございます。ヘルスケアについて簡単な質問があります。弊社は見通しを維持していますね。9月の会議において、ジョー・ホーガン氏はそのプレゼンテーション上で米国のDRAイメージング事業は20%減と言っていたと思います。これはDRAによって影響を受けた特定の事業について話されているのでしょうか？米国のイメージング事業の見通しが横ばいであるということを確認したということでしょうか？

それに続き、ここでは何が御社の自信となっているのでしょうか御社の期待通り順調に進んでいるのでしょうか？現状における最新情報や、この分野のデータポイントを頂けませんか？

キース・シェリン - GE、CFO

勿論です。受注をご覧頂きますと…私の方ではジョーが何について申し上げたのかは正確には存じ上げませんが、幾つかのデータポイントを差し上げます。先ず一つ目は、米国におけるDRAによる受注の影響をご覧頂きますと、およそ20~30%です。それは様式によって異なりますが、第3四半期におけるDI全体としては、DRAの影響によって20%減です。ですから、彼は受注を意味していたと思われる。

それで、米国のイメージング事業の影響についてですが、弊社が先に配布した別表をご覧頂くと、原動力のところ、その受注が受けた影響とその減少によって第三四半期において弊社のヘルスケア事業の営業利益は12%押し下げられていて、第4四半期において10~15%と予想されています。そして来年は、弊社の事業の中でよりよい比較対象となる開始点となります。

ジェフ・イメルト、GE会長兼CEO

スティープ、私からは悪化はしていない、と申し上げておきます。低迷が続いていることは確かです。2008年には改善は期待されませんが、悪化も予想されていません。

ステファン・トゥサ氏、JPモーガン社アナリスト

わかりました。手短に最後の質問をさせて下さい。第2四半期後にインフラストラクチャー事業についての見通しが発表されましたが、この会議はほんの数週間前の話です。そこで皆さんはインフラストラクチャーは可視性のある事業だと話されていました。それが面白いところなのです。四半期から次の四半期に進む間に、道路の隆起部のような感じで、ちょっとした期待の光が見えてきたと思ったら、時間の経過とともに我々の思い通りにそれが形となるのでしょうか？

ジェフ・イメルト、GE会長兼CEO

ステイプ、それでも私はインフラストラクチャーは通年ではあがると思います。キースが指摘したように、第4四半期に大幅に上昇します。常に特定の動きがあると思います。一任勘定という面では、弊社は幾つかの技術面の支出を増やすことを決めています。アビエーションとエネルギー事業においては、大型の技術計画が展開中です。これは1億ドルという高額が一任勘定で手掛けられますが、これは繰り返されません。

幾つかのサービス契約の時機のようなものが次の四半期に進む間に生じる場合がありますが、受注残高の成長、部品の成長、風力発電、マージン価格、CSA開発、グローバル化などの全ての基礎を見て頂けば、これは大波です。私がいかにして自分のモデルを構築するかに始まり、四半期における20%増の目標から1.85億ドルのマイナスで、これは全て第4四半期と2008年を改善させると思われる一任勘定に牽引されたものでした。

弊社のような規模の企業、そしてライスが経営する600億ドルのビジネスにおいて、現在程に可視性の高い状態はありません。

ステファン・トゥサ氏、JPモーガン社アナリスト

そうですね。どうもありがとうございました。

オペレーター

クレディ・スイスのニコル・パレントさん

ニコル・パレント氏、クレディ・スイス、アナリスト

おはようございます。ジェフ、M&Aに関するあなたの見通しをお聞きしたいのですが、オキシジェン社の買収に積極的でしたが、今週のみ市場推測を信じるならば、この世のどこをも買収する勢いに見えます。安全性に関してスミス社との合弁会社を続行しないという今回の戦略ですが、今後の更なるポートフォリオの動きをどう見られているのかについて確認させてください。

ジェフ・イメルト、GE会長兼CEO

ニコル、改めていうと、今年弊社は自社株買いに専念しています。今年度末には、2008年とそれ以降における更なる自社株買いについて発表する予定です。ニコル、私はポートフォリオの現状に満足しています。我が社には多大なる成長のエンジンがあってここまで進んできました。今後もそれが我が社を先に進めます。キースと私は30億~50億ドルに及ぶインダストリアル事業の買収についてお話ししたいと思います。買収の面で私が検討しているのは、そのようなところです。

売却の面では投機主義で、ポートフォリオと、自分達では経営がうまくいかないが他でそれが達成され得る事業を見出すことに専念し、これらの事業を売却する機会を探します。我が社は体制化が整っていると思われれます。第2四半期で説明したものと同一計画を実行します。

ニコル・パレント氏、クレディ・スイス、アナリスト

わかりました。ヘルスケアに関しては、2008年における更なるDRAのカットについてどうお考えですか？
馬鹿げた質問かもしれませんが、一年中出荷がなかった状況で、なぜOECの販売において損出を埋め合わせるのでしょうか？
来年どうやって顧客を呼び戻すのでしょうか？

ジェフ・イメルト、GE会長兼CEO

ニコル、最初の質問ですが、改めて言わせて頂くとそれは米国政府次第です。しかし我が社はDRAのケースを明白に述べたと思います。私達はこれは優れたテクノロジー、優れた科学であり、プロ患者学であると思っております。これが幅広くもたれた見解でありまして、既に行われたことについては解決され、2008年における更なるカットはないと考えています。

ニコル、OECについては、これは素晴らしいフランチャイズでした。というより現在も進行しています。受注残高は2億ドルで、取り消しがあったのはそのごく僅かでした。我が社には優れた製品があります。この事業を再開するために、FDAと共に非常に建設的に取り組んでいます。しかし、承認の判決においては、これはフランチャイズの規模ではなく、我が社のポートフォリオ全体における強みの一つでした。

ニコル・パレント氏、クレディ・スイス、アナリスト

わかりました。最後にもう一つ、アビエーションについて質問があります。R&Dにおける支出増加というのは何についてか、もう少し教えて頂けませんか？ビジネスジェットの増加ですか？それから、今週発表されたボーイング787の遅延による弊社の影響について、最新情報を頂けますか？

ジェフ・イメルト、GE会長兼CEO

支出については、幾つかの大きなプログラムがあります。GENxの787機、次の狭胴機体であるLEAP56、商業用ジェット市場に向けたホンダとの合弁会社等、我が社はこれら全てのプログラムに資金を提供しています。787についてですが、キースの方から787の事業について話がありましたが、私は我が社には影響はないものと考えております（複数の話者）。

キース・シェリン - GE、CFO

ありません。弊社は当初のスケジュール通りに開発プログラムを続行します。私達のコミットメントを達成させるために引き続きボーイング社と共に取り組んでまいります。弊社への大きな影響は予想されていません。

ニコル・パレント氏、クレディ・スイス、アナリスト

わかりました。ありがとう。

オペレーター

ゴールドマンサックス社、ディーン・ドゥレイ氏です。

ディーン・ドゥレイ氏、ゴールドマンサックス社アナリスト

ありがとうございます。おはようございます。クレジット市場で起きている混乱に関してですが、GEは明らかにトリプルAの信用格付けによって有利な立場にある様子ですね。資金調達側の立場からお話を聞きたいと思います。御社がコマーシャルペーパーの需要による短期社債の発行を量的分析できたなら、長期社債では60年社債を発行してたでしょう。どこでどのようにトリプルAの格付けが有利になっていること量的分析するのでしょうか？

それからもう一つ関連の質問があるのですが、ポートフォリオのサイズを考慮すると、あなた曰く倉庫と証券化された残余持分の間で値洗いしたようですが、これはかなり小規模という印象を受けます。これについては検討中ですか、それとも規模を設定しているのですか？

キース・シェリン - GE、CFO

先ず、夏の間はトリプルA取得企業として大変有利でした。明らかに質への逃避がありました。弊社はCP（コマーシャルペーパー）による資金調達において混乱が生じたことはありません、ディーン。8月の間、弊社は荒れの市場において180億ドルの長期国債を発行しました。ある金曜日、大型国家年金基金側から弊社に対する50億ドル調達に関する打診がありました。ですから、やはりこの夏には質への逃避があった筈です。

弊社のCPは資産担保コンデュイットより100ベースポイント低く取引されており、格付けに対する信頼が示されました。トリプルAの格付けは、この夏弊社にとって非常に大きな価値があったといえるでしょう。値洗いについてですが、コマーシャルファイナンスの貸貸対照表に組み込むオリジネーションのビジネスモデルをご覧しますと、非常に貢献していることがわかります。弊社は優先株式の貸し手として体系化されています。メザニン型の倉庫合計と劣後債は、四半期末に1億ドルに及びました。

改めて申し上げますが、これがリスク管理の原則、引き受け業務の原則、オリジネーションの原則が一組となったもので、大変役立っています。ここで、第四半期で弊社が行った全ては市場の混乱に関連するもので、引き続き弊社に影響を与えるものではないことをご理解頂けたと思います。

ディーン・ドゥレイ氏、ゴールドマンサックス社アナリスト

GE

Moneyに関するフォローアップですが、支払延滞に関しては合理的に抑制されているように見えます。今後幾つかの四半期における支払延滞に関するモデルはどのようなものですか？更なる準備金への期待はどのようなものですか？

キース・シェリン - GE、CFO

この四半期でアメリカ大陸における支払延滞率は35ベースポイント上昇していることは、先程ご覧頂いております。今後ですが、支払延滞はこのレベルを続けることと思われれます。この四半期に弊社はGE Moneyに対する2億ドルの引当金を計上しました。これは支払延滞、そして資産伸び率に組み込まれます。引き続きアメリカ大陸におけるプレッシャーが予想されるところです。

住宅市場の今後や消費者の動きをこの四半期に見極める必要があります。しかし第4四半期中は支払遅延が続き、弊社としては引き続き引当金を増加させることが予想されます。

ディーン・ドゥレイ氏、ゴールドマンサックス社アナリスト

わかりました。ありがとうございました。

オペレーター

モーガンスタンレー社スコットデービス氏です。

スコットデービス氏、モーガンスタンレー社アナリスト

皆さん、おはようございます。この四半期は少々混乱気味であったが、見通しが明るいとのことですが、受注残高と価格設定における大きな改善について話されていますよね。弊社は事業再編によって改善されています。私の質問は、それで年間のマージン目標100ベースポイントを達成することができるのでしょうか？今年は何パーセントとなるのは勿論ご存知ですよね？

キース・シェリン - GE、CFO

私はかなり力強くなるとみています。弊社の目標に比べて今年の押し下げ要因の一つはヘルスケアです。ヘルスケア事業の営業利益率は素晴らしいものがありますが、今年において横ばいということは、それだけで弊社の目標から30ベースポイントの縮小になります。前年比では10ベースポイントの引き下げとなりますが、弊社の目標に対しては30ベースポイントです。

ですから、明らかに、ヘルスケア事業で期待される改善、インフラストラクチャー事業における価格設定による利益、受注残高の成長、スミス社とベトコ社の改善によって、来年には100ベースポイントに至るであろうと確信しております。

ジェフ・イメルト、GE会長兼CEO

スコット、それは会社のシニアマネジャーの給料が3、4の測定基準の一つとなります。今年も既にあり、幾人かはそれを逃しましたが、来年も適宜生じます。販売残高に可視性がある現状においてはサプライチェーンとコスト削減に集中することによって、マージンの上昇が可能となります。

スコットデービス氏、モーガンスタンレー社アナリスト

ここで、悪魔の代弁者の役をかわせて下さい。現在御社は受注残高において健全な改善がみられたようですが、実際にはここ7か8の四半期にかけての話で、価格設定においては前四半期からようやく上向きになったところですよ。例外があるとは思いますが、あなたのスタッフが市場占有率と売上高において少々アグレッシブな態度をとっているだけで、本来は利益に影響のある価格においてそうすべきであったのではないのでしょうか？

ジェフ・イメルト、GE会長兼CEO

事業を分割してみた時に、アビエーション事業においては正解かかもしれません。でもそれは2003年に起き得た話です。つまり基本的には数年の時間のずれが生じています。9/11がありました。商業アビエーション産業の将来が不明であった9/11直後のものを依然として出荷しています。しかしこれは現在の話ではありません。私からは、受注残高に戻ってくるものはより高い価格になるということをおっしゃってください。

エネルギー事業においては現在の状態が生じていて、サービスに比べて好調な製品の拡大によって一掃されつつあります。しかし、スコット、全てを考慮しても、私達が取り組んできた事業再編と受注残高における価格設定は、満足できるものです。

スコットデービス氏、モーガンスタンレー社アナリスト

わかりました。プレスリリースにおいてマクロ環境についてあなたは「…またはプレゼンテーション…オーケー」と言われていますが、もう少しこの点を細かく説明して頂けませんか？御社のインフラストラクチャー事業はいかなる障害も予想されないということですよね。予想通り住宅市場の影響で家電は軟調気味でしたが、米国において問題となり得る他の要因はないのでしょうか？

ジェフ・イメルト、GE会長兼CEO

スコット、私は先月世界中を訪問しましたが、世界経済は依然として大変活気があります。どの場所においても減速のサインを感じられません。フランスでは大型のタービン発注があります。先進国と新興成長市場の拡大に関するリストを読み上げてもいいですよ。

米国の住宅市場は依然として非常に困難な状況で、必ずしもこの市場において差し迫っての改善がみられませんが、照明インダストリアル、コマーシャルのような住宅市場を取り巻く経済については、依然としてプラスの領域にあります。よって、弊社にとっては世界市場は堅調、米国住宅市場は低迷、しかしそれ以外の米国市場は順調といった感じです。

スコットデービス氏、モーガンスタンレー社アナリスト

わかりました。はっきりしました。ありがとう。

オペレーター

バンクオブアメリカのロバート・マッカーシー氏です。

ロバート・マッカーシー氏、バンク・オブ・アメリカ証券、アナリスト

皆さん、おはようございます。世界市場について、スコットのコメントについてのフォローアップさせてください。先ず世界市場ですが、ドルが弱いために2008年には経済成長やユーロ圏における復活を和らげる可能性があるという意見があります。そのため将来を見通して投資面でアジアから手を引く兆しがあるといった不確かな情報があります。

この点においてコメントはありますか？弊社は多くの事業において、特にインフラストラクチャーにおいてかなり長いサイクルがありますが、このような兆しが見られるのでしょうか？2008年後半には若干の減速を予想しておられますか？

ジェフ・イメルト、GE会長兼CEO

ロブ、私はエコノミストではありませんので、その印象について申し上げます。私は、アジア、日本、中国、マレーシア、ベトナムを訪問しましたが、アビエーション、ヘルスケア、石油・ガス、エネルギーのどの事業をとってもそのような兆しは見られませんでした。上海と北京の郊外にある幾つかの町を訪問しましたが、クレーンが至る所がありました。ベトナムには10億ドルを投じる予定です。世界中で活気があります。

ヨーロッパでも、東ヨーロッパ、ロシア、トルコ、発展中の国においても、我が社はヘルスケア、エネルギー、アビエーション、石油・ガス等の製品を販売しており、インフラストラクチャー事業においては長期の著しい成長がみられます。通貨によって自動車等の流動性のある製品は減速する可能性がありますが、商業アビエーション事業に影響を与えるものではないと私達は考えています。又、インフラストラクチャー事業の需要に影響を与えとも思われません。

ロバート・マッカーシー氏、バンク・オブ・アメリカ証券、アナリスト

御社の長いサイクルという体質によって、ある程度隔離されるわけですね。

ジェフ・イメルト、GE会長兼CEO

我が社の社史においてその受注残高は最高です。少なくともこの事業における可視性は最低でも2008年末まで正確であると考えられます。

キース・シェリン - GE、CFO

石油におけるドルは別の要素で、明らかに弊社の成長を牽引しています。しかし第3四半期にはアイルランド、英国、スペインからのタービンの発注もありました。開発済の市場においてもその能力を向上するための需要がみられます。ガスタービンは最も環境にやさしく、最も早い発電能力となります。

ロバート・マッカーシー氏、バンコ・オブ・アメリカ証券、アナリスト

そうですね。話題を米国に切り替えますと、米国経済と、現在の住宅市場の下降に続き、特に商業用建築の状態について多くの懸念があります。御社に商業不動産事業があり、非住宅建築への販売を行っているということは、マージンの変化について何らかの見解がありますか？

ジェフ・イメルト、GE会長兼CEO

特定の市においては依然として不足の状態のため、商業不動産市場は比較的安定を続けています。一つ一つの町に原動力があります。商業建築の面では、学校、病院、政府関連等は堅調です。それは米国でもライティング事業やインダストリアル事業における著しい成長がみられることから判断できます。

キース・シェリン - GE、CFO

そうですね。私も同意です。弊社の融資総額を考慮すると、キャピタルソリューション事業においては、第3四半期において融資総額は二桁台の堅調な成長をみせています。これは中規模市場です。

ロバート・マッカーシー氏、バンコ・オブ・アメリカ証券、アナリスト

そうですね。結構です。それからもう一つだけ質問させてください。ライティング事業ですが、大きな事業再編を発表されていますね。テクノロジーエネルギー効率等、その参画にある産業の原動力によって、同事業は全体的にかなりの額の変更があるようですね。この事業による大幅な成長がみられます。

この事業はこれまで積極的な投資が行われていなかったが今後買収のような投資の増加が必要となり得るという意味で、ポートフォリオの交差点のようなものですか？御社の競合相手は米国のライティング備品の市場入りするかもしれません。中期における同事業におけるあなたの視点を教えてください。売却または投資の撤収のようなものですか？基本的には投資ですか、それとも売却ですか？

ジェフ・イメルト、GE会長兼CEO

ロブ、私が申し上げたいのは、プラスチックによる利益を発展中の重要な活動のために使うことができたのは、大きな助けとなったということです。プラスチックによる利益、サブプライムからの撤退、日本と消費者金融からの撤退は、本当に有益であったと思います。

ライティング事業におけるテクノロジーの復興が起きます。弊社は自分達に投資します。私は今回再度アジアに行って、家電事業において効果的に行ったことと同じことをライティング事業において行う大きな機会があると感じました。台湾と中国にはあらゆる種類のチップメーカーがいます。ここではLEDテクノロジーやCFLにおける優れたアウトレットがあると考えられます。よって私達は、この事業においては弊社に求められていること全てを行う世界的な好機があると考えております。

ロバート・マッカーシー氏、バンコ・オブ・アメリカ証券、アナリスト

お時間ありがとうございました。

オペレーター

ドイツ銀行、ニジェル・コー氏です。

ニジェル・コー氏、ドイツ銀行アナリスト

ありがとうございます。おはようございます。前四半期では金融市場の混乱がありましたが、この状況の中GEキャピタルについてはどう考えているか、GEキャピタルはある部分エクスポージャーがあるのか、大まかに説明して頂けませんか？そして細かい質問ですが、GEキャピタル内の資金調達について。コマーシャルペーパー市場の凍結による打撃がありましたが、御社に影響がなかったことは存じ上げていますが、今後ショートからロングへ移行することは検討されていますか？

キース・シェリン - GE、CFO

資金調達の質問から始めさせてください。その後資産のエクスポージャーの件に戻ります。資金調達の質問ですが、弊社は長期負債を続けます。短期のレート等の特定の見解によるものではなく、資金調達計画の観点によるものです。長期負債は満期が各年で管理可能な金額を得ることができ、5年先まで安定したペースで資金調達の要求を維持できます。

弊社はおよそ900億ドル相当のコマーシャルペーパーを発行しています。これに近いレベルでコマーシャルペーパーの発行を続け、資産の成長は長期負債によって調達されます。資産のエクスポージャーについてですが、私達はコマーシャルファイナンス事業において大変有利な位置付けをしていると考えております。

弊社には資本を業務に投じる機会があります。融資比率70%の優先株式、優先負債は引受取引につき0.95ドルです。私達は会社をよく理解しております。弊社のお金についてもよく理解しています。弊社は過去3年間私達が見てきた負債構造よりも利益の高いところに資金を投じています。これは大きな好機です。

世界におけるリースとローンのポートフォリオをご覧頂くと、現在の弊社の貸貸対照表は過去にない健全なレベルにあります。弊社の支払延滞は最低記録で、消費者ポートフォリオと企業は、デレバレッジと世界的な競争という面で、貸貸対照表を劇的に改善しています。

そして不動産事業があります。ジェフが申し上げた通り、弊社には素晴らしいフランチャイズがあります。需要と供給、そして地域と価格設定、取替原価における能力の見通しが何かについての重要な引受業務によってその事業の周り全てが牽引されます。弊社が不動産事業に投資を行う主要地域の一つにおいて、取替原価が厳しい状況になるという話はありません。ですから不動産事業についても満足しております。

ジェフ、何か付け加えることはありますか？

ジェフ・イメルト、GE会長兼CEO

コマーシャルファイナンスにおいては、米国だけでなく、世界中で更なる成長の機会があると思います。この崩壊と高い利益率によってその環境が作られます。

キース・シェリン - GE、CFO

そして、会社にとって資本調達が難しいような時期に、弊社のように顧客に資金調達ができるような貸貸対照表があるというのは、素晴らしいことであると思います。私達の方に戻ってきているということです。ニゲル。

ニジェル・コー氏、ドイツ銀行アナリスト

そうですね。もう一つ質問がありまして、これについては既にお答えになったかもしれませんが。現在の環境においてGEキャピタルには数多くの成長の機会があるようですね。しかし、GEの親会社内で自社株買いや買収による巨額の資本配置があり、配当率を40%から例えば50%まで上昇させるような話がありますか？

キース・シェリン - GE、CFO

GEコマースサービスからの配当についてでしょうか？

ニジェル・コー氏、ドイツ銀行アナリスト

そうです。

キース・シェリン - GE、CFO

現在は40%に留めることにしています。改めて、過去の数年で、保険事業の売却による収益を株主へ配当したために、遥かにそれを上回っていました。しかし現在は枠組みではそのレベルを維持することになっています。

ニジェル・コー氏、ドイツ銀行アナリスト

わかりました。ありがとう。

オペレーター

UBSのデーヴィッド・ブルーステイン氏です。

デーヴィッド・ブルーステイン氏、UBSアナリスト

おはようございます。簡単な質問が二つあります。先ず、ガスタービンの受注を国内と米国外で分類して頂けませんか？

キース・シェリン - GE、CFO

この四半期に米国におけるガスタービンの受注はありませんでした。これらは全て海外です。

デーヴィッド・ブルーステイン氏、UBSアナリスト

わかりました。簡単ですね。二番目は、787機の遅延の裏にあるあなたの考えを教えてください？直接的な財務面での影響はないと話されていましたが、どのようなボーイングの遅延が御社へ重要な影響を生じるのでしょうか？更なる遅延の確率は数字に表されていますか？

キース・シェリン - GE、CFO

新しい顧客別生産計画は現時点では発行されていませんので、お答えするのは難しいですが、弊社の財務面だけで考えてみますと、先ず弊社は私達のその要求を満たすために開発プログラムを続けます。次には、これらの最初のエンジンのマージンは高くありません。ボーイング社から生産計画の詳細を受け取っていませんので、数量化されたものは持ち合わせていませんが、現時点では弊社に与える大きな影響という点について自信を持っております。

デーヴィッド・ブルーステイン氏、UBSアナリスト

これらのプログラムにおけるあなたの経験からいうと、この程度の遅延が一度生じると、通常は次にも起こり得るものですか？

ジェフ・イメルト、GE会長兼CEO

デーヴィッド、そのような事にはなりません。私達はこの終末に対処します。弊社のエンジン、そしてスミス社によるコミットメントに関して、一段と優れて対処することを徹底します。

デーヴィッド・ブルーステイン氏、UBSアナリスト

完璧です。どうもありがとうございます。

ダン・ジャンキー、GE インベスターリレーションズ、副社長

フィル、最後の質問にしてください。

オペレーター

了解致しました。ベア・スターンズ社のアン・ディグナンさんです。

アン・ディグナン氏、ベア・スターンズ社アナリスト

こんにちは。私の質問は殆ど既にお答えいただいています。しかしジェフ、石油・ガス事業における長期のビジョンが何か興味があるのですが。事業はよりサービスの方に展開していくのでしょうか？それともセグメントに構築された今日現在のポートフォリオに満足されているのでしょうか？

ジェフ・イメルト、GE会長兼CEO

アン、弊社は海底事業の促進に成功しています。ベトコ・グレイ社の買収は取引のおそらく少なくとも1億ドル増しです。事業のテクノロジーの面は維持したいと考えておりますが、今後もニッチなテクノロジーを探し続けます。

現在およそ70億ドルの事業稼働率です。更に拡大できない理由はありませんが、同事業において大きな内部成長の機会があるために、今特に大型の買収を行う必要性は感じられません。

アン・ディグナン氏、ベア・スターンズ社アナリスト

わかりました。ありがとうございました。サービスの方に移行するといった噂がありましたので。情報ありがとうございました。

ピーター・ネスヴォルド氏、ベア・スターンズ社アナリスト

こんにちは、ジェフ。私はピーター・ネスヴォルドです。資本の面ですが、GE Moneyにおいて利益伸び率の減速が続いていますが、次の四半期では一桁後半まで進む可能性があります。何がそれを引っ張っているのか詳しく教えて頂けると有難いのですが。オリジネーションの低さ、準備金の高さ、または他の要素ですか？

それに続き、過去数年間にわたってGEキャピタルは着実な15%の収益成長者であると話されています。クレジットサイクルの中で今後1、2年の間持続可能でないところにいるのでしょうか？それともこのトレンド以下になるのでしょうか？

ジェフ・イメルト、GE会長兼CEO

ピーター、あなたの質問はGE Moneyについてですね？

ピーター・ネスヴォルド氏、ベア・スターンズ社アナリスト

そうです。

キース・シェリン - GE、CFO

最初の部分ですか？この四半期をご覧頂くと、世界においては著しい成長がありました。資産は大きく成長しています。アジアとヨーロッパの利益伸び率は堅調でした。押し下げ要因はアメリカ大陸です。アメリカ大陸は4%減で、全て米国クレジットカードと小売販売財務の帳簿に関連します。弊社としてはありきたりですが、消費者の動きを見ます。支払延滞が上昇するようであれば、準備金も増加し引当金も増加します。四半期にその影響をご覧頂きました。引当の2億ドル増加は殆どがアメリカ大陸の帳簿に関連するものです。ご存知の通りプレッシャーが続くことが予想されています。これがその要因です。GEコマーシャルファイナンスの全体的な成長を見て頂くと、自己資本利益率と保留利益の機能です。最終的に自己資本利率は25%で利益過剰金は60%です。弊社の増益は13、または14%となる筈です。これが弊社の営業の枠組みです。自己資本で運営される小切手帳です。これは弊社が体制化が取れている点です。全てのチームがその収益に基づいて自分達の資金を割り当てています。

ピーター・ネスヴォルド氏、ベア・スターンズ社アナリスト

最後のGEコマーシャルファイナンスに関するフォローアップの質問ですが、GE Moneyと設備・機器の資金調達ですが、オンブックとオフブックを比較すると払延滞に差異があることに気付いたのですが。これについて説明ありますか？

キース・シェリン - GE、CFO

それについては改めて確認させていただきます。オンブックとオフブックの比較については、ここで準備しておりませんでした。

ピーター・ネスヴォルド氏、ベア・スターンズ社アナリスト

わかりました。

ジェフ・イメルト、GE会長兼CEO

今朝ご出席頂きました皆様にお礼を申し上げます。この四半期には多くのことが起きていますが、会社の基礎はしっかりしています。数々の外部の変動性や、会社内の一回限りの特定項目の幾つかを含む四半期を終えました。しかし私達はここで第4四半期に向けて収益を促進させなければなりません。弊社の長期的経営への集中については満足しております。

私達には素晴らしい事業が幾つかあります。インフラストラクチャー事業は好調、コマーシャルマネー、コマーシャルファイナンス、GE Moneyにおいては堅調、NBCUは改善中です。力強いインダストリアル事業のフランチャイズ展開、2008年へ向けて改善されるヘルスケア事業。私達は弊社が置かれる位置続々に満足しております。

ダン・ジャンキー、GE インベスターリレーションズ、副社長

素晴らしい。ジェフ、どうもありがとう。ジョアンと私は何時でも皆様からの連絡を承っています。本日のテープと議事録は弊社のウェブサイトで参照頂けます。大変ありがとうございました。

オペレーター

どうもありがとうございました。皆様、本日はコンファレンスコールにご参加頂きましてありがとうございました。これにて本日のプレゼンテーションを終了させていただきます。電話を切ることができます。さようなら。

免責条項

トムソンファイナンシャルは、いかなる人物に事前に通知を行うことなく、このウェブサイトに掲載されている文書、内容、またはいかなる情報を変更する権利を留保します。

イベント議事録が作成されたコンファレンス・コールにおいては、企業はいかなる項目に関しても企画または将来見通しに関する記述を作成することができます。将来見通しに関する記述は、現時点における予想に基づきリスクや不確実性を伴います。その実績は、数多くの重要な要因およびリスクに基づいて作成される将来見通しに関する記述とはかなり異なる場合があります。将来見通しに関する記述は当該企業の独自の判断に基づいたものであり、不正確あるいは不適切である場合があります。したがって、将来見通しに関する記述の正確性を保証するものではありません。

イベント議事録に記載されている情報は、コンファレンスコールにおいて当該企業から入手したものを原文のまま記録したものです。正確な議事録を提供するよう心掛けておりますが、コンファレンス・コールの内容において実質的な不手際が生じる場合があることをご了承下さい。トムソンファイナンシャルまたは当該企業は、このウェブサイトまたはいかなるイベント議事録に掲載されている情報に基づいた、いかなる投資または決定に対して一切の責任を負いません。ユーザーはいかなる投資及び決定をする前に当該企業のコンファレンス・コールおよび証券取引委員会に対するファイリングを検証されることを薦めます。

© 2005, トムソン・ストリート・イベント著作権所有